

平成 22 年 5 月 14 日現在

研究種目：若手研究（スタートアップ）

研究期間：2008～2009

課題番号：20820001

研究課題名（和文）中国口語起源漢語を含む漢文の訓読の実証的研究

研究課題名（英文）A study on readings added to colloquial words in Chinese texts

研究代表者

唐 煒 (TANG WEI)

北海道大学・大学院文学研究科・助教

研究者番号：40455613

研究成果の概要（和文）：

日本の漢文訓読の研究は目覚ましい成果をあげ、日本語史の研究に多大な貢献をしたばかりでなく、漢文訓読が日本の知識文化の形成に深く関与したことを解明しつつある。本研究課題の代表者は、日本書紀中の中国口語起源漢語の箇所を具体的に調査して、研究成果の一として此の問題に正面から取り組んだ初めての単行研究書『日本書紀における中国口語起源二字漢語の訓読』を刊行し得た。また、初唐末に翻訳が成立して間もなく日本に将来され大きな影響を与えた金光明最勝王經の平安初期訓点資料を調査して、この問題に関する考察を行い専門学会である訓点語学会で研究発表した。これらを通して、日本の漢文訓読という学習形態の特徴を解明した。

研究成果の概要（英文）：

The study of *Xundu*-reading in Japan has developed so much as devoting to a study not only on Japanese language but also on Japanese intelligent culture. The author has started up a study on readings added to colloquial words in *Nihonshoki* and published the epoch-making work "A study on readings added to bisyllabic colloquial words in *Nihonshoki*". And the author has studied on readings added to colloquial words in *Chin Kuang Ming Tsui Sheng Wang Ching* in which was translated into Chinese at the end of 7th century and influenced on Japan so much, and read a paper at the 101th meetig of the *Kuntengogakkai*. Through above mentioned works the author has made clear a characteristic of study method of *Xundu*-reading.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2008年度	1,190,000円	357,000円	1,547,000円

2009年度	910,000円	273,000円	1,183,000円
年度			
年度			
年度			
総計	2,100,000円	630,000円	2,730,000円

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：言語学・言語学

キーワード：中国口語・敦煌文献・日本書紀・漢文訓読

1. 研究開始当初の背景

古典漢文（文語）の訓点資料の研究が第二次大戦後目覚ましい成果をあげていることに比して、著しく研究が立ち遅れている中国口語的表現を含む漢文の訓点資料を調査して実証的に研究することが、本研究の目的である。この学術的背景の中で、本研究課題の代表者は、日本書紀中の中国口語起源漢語の箇所を具体的に調査して解明する研究に着手し、国内の訓点語学会や国際アジア北アフリカ研究会議・中国日本語教育研究会などの国際会議に於て研究発表を重ねて来た。

2. 研究の目的

日本の漢文訓読の研究は目覚ましい成果をあげ、日本語史の研究に多大な貢献をしたばかりでなく、漢文訓読が日本の知識文化の形成に深く関与したことを解明しつつある。ただしそれは、古典漢文（文語）資料を中心とした作業であって、中国口語表現を含む漢文の訓読の研究は甚だしい。この学術的背景の中で、本研究課題の代表者は日本書紀中の中国口語起源漢語の箇所を具体的に調査して解明する研究に着手し、国内の訓点語学会や国際アジア北アフリカ研究会議・中国

日本語教育研究会などの国際会議に於て研究発表を重ねて来た。一方で、中国口語の認定自体に中国語研究者による見解の相違も存在するので、専門家との協議も重ねる。これらを通して、日本の漢文訓読という学習形態の特徴を解明する。

3. 研究の方法

(1) 日本書紀中の中国口語起源漢語の箇所の訓点資料調査。

この問題に正面から取り組んだ初めての単行研究書『日本書紀における中国口語起源二字漢語の訓読』を研究成果の一として刊行し、引き続き関連調査を行う。

(2) 金光明最勝王経中の中国口語表現的箇所の訓点調査。

初唐末に翻訳が成立して間もなく日本に将来され大きな影響を与えた金光明最勝王経訓点資料を、春日政治『西大寺本金光明最勝王経古点の国語学的研究』（春日政治著作集所収本）を主として調査する。

(3) 中国口語の認定に関して国内外の中国語研究者と協議する。

研究成果を国際会議及び訓点語学会などの国

内の学会に於て積極的に研究発表を行い、専門家と協議する。

4. 研究成果

(1) 日本書紀中の中国口語起源漢語の箇所
の訓点資料を具体的に調査して、国内の訓点語
学会や国際会議に於て研究発表を重ね、この
問題に正面から取り組んだ初めての単行研
究書『日本書紀における中国口語起源二字漢
語の訓読』を刊行した(北海道大学図書刊行
会、平成21年3月)。

(2) 初唐末に翻訳が成立して間もなく日本に
将来され大きな影響を与えた金光明最勝王
経の平安初期訓点資料を調査して、この問題
に関する考察を行い、訓点語学会において研究
成果を発表した。(第101回訓点語学会、平
成21年10月)。

(3) 一方で、中国口語の認定自体に中国語研
究者による見解の相違も存在するので、国際
ワークショップにおいて研究発表して国内外
の専門家との協議を行った(「日本語教育・
日本学研究国際シンポジウム」中国広州、
2008年12月、国際ワークショップ「漢字情
報と漢文訓読」北海道大学、2009年8月、「中
国第5回全国大学日本語教学研究国際シンポ
ジウム」中国上海、2009年12月)
これらを通して、日本の漢文訓読という学習
形態の特徴を解明した。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者に
は下線)

[雑誌論文] (計4件)

1. 唐焯「日本書紀における中国口語起源漢
語二字形容詞の訓点」、『言語研究の諸相』

北海道大学出版会、pp. 87 - 99、2010年3月
31日、査読あり。

2. TangWei「The Use of Chinese Words of
Colloquial Origin in the *Nihon Shoki*
『JOURNAL of the Graduate School of
Letters』Vol. 5.

HOKKAIDO UNIVERSITY. pp. 65 - 80、2010年3
月31日、査読あり。

3. 唐焯「中国口語起源二字漢語の訓読」、『漢
字情報と漢文訓読』

北海道大学大学院文学研究科、pp. 68-83、
2009年8月22日、査読あり。

4. 唐焯「日本書紀における中国口語起源漢
語の訓読」、『東亜地区日語教育日本学研究前
沿文存』、

華東理工大学出版社、pp. 300-311、2009年
11月、査読あり。

[学会発表] (計4件)

1. 唐焯「中国口語起源漢語の訓読について」、
中国第五回全国大学日本語教学研究国際シ
ンポジウム、2009年12月12日 - 14日、
中国・上海、

2. 唐焯「西大寺本金光明最勝王経平安初期
点における中国口語起源二字漢語の訓読」、
第101回訓点語学会研究発表会、2009年10
月18日、東京大学

3. 唐焯「日本書紀における中国口語起源二
字形容詞の訓点」、第98回訓点語学会研究
発表会、2008年5月25日、京都大学

4. 唐焯「日本書紀における中国口語起源漢
語の訓読」日本語教育・日本学研究国際シ
ンポジウム、2008年12月15日 - 16日、中
国・広州

[図書] (計1件)

1. 唐焯、北海道大学出版会、『日本書紀
における中国口語起源二字漢語の訓読』、

2009年3月31日，査読あり。220頁

6. 研究組織

(1) 研究代表者

唐 煒 (TANG WEI)

北海道大学大学院文学研究科・助教

研究者番号：40455613

(2) 研究分担者

無し

(3) 連携研究者

無し